

算数に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ◇全国平均と同程度か、上回っている問題が多い。
- ◆数と計算の領域では、「割り算の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考える問題」に課題が見られた。
- ◆図形の領域では、「正三角形の意味や性質の理解」と、「高さが等しい三角形の底辺と面積の大小を判断する問題」に課題が見られた。
- ◆変化と関係の領域では、「百分率で表された割合の理解」に課題が見られた。

指導改善のポイント

本年度調査も、実生活を想定した問題や、児童同士のやりとりから生まれる問題が多く出題された。問題文が長かったり、説明に条件がついた問題になったりすると、正答率が低くなっている。普段の学習から扱う問題を工夫し、個別と協働を往還した学習を進めていきたい。

数と計算

○筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算と式を関連付けて考察できるようにすることが重要である。学習の「広げ深める」場面で、比較したり、結びつけたりする活動を意識して取り入れていく。

【66÷3の筆算】	【けんたさんの説明】
手順1 $3 \overline{)66}$	10を⑩、1を①で表して、60について考えます。 ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ⑩ ----- ① ① ① ① ① ①

図形

○目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要である。図形を描いたり、折ったり、切ったり、測ったりする活動を多く取り入れ、図形に関する感覚を養いたい。

○三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの關係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の關係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要である。平行な直線に挟まれた平行四角形や三角形の高さは等しいことをおさえたうえで、面積や底辺、高さの關係を理解できるようにしたい。

④ 開くと三角形ができました。

変化と関係

○日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の關係に基づいて理解できるようにすることが重要である。「割合が30%になるもの」を考えるときには、基準量と比較量が何なのかを丁寧に確認してから考えさせていきたい。

データの活用

○目的に応じて分類整理された複数のグラフを見比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。また、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのか明らかにして、他者に分かりやすく説明できるようにすることも大切である。学級や学年で共通の興味関心に基づいた課題を見つけ、データを収集し、分析する活動を通して力をつけていきたい。

